

『寄付や社会貢献から学ぶワークショップ～「from Me」ゲームを通して、持続可能な市民活動へ～』

本年度は、カードゲーム「from Me(フロムミー)」(寄付、投資、消費、貯蓄など、お金の使い方を通じて自分のウェルビーイング(幸福)の向上とお金の使い方の関係性を疑似体験できるカードゲーム)を活用して、寄付による社会貢献等と地域づくりの関係について学び、市民活動団体の地域における役割の再認識及び会員や活動資金の獲得につながるきっかけとなることを目的にセミナー・ワークショップを開催しました。

日 時:令和6年7月7日(日)13:05～15:45

会 場:市民交流施設「ぷらっと」(C・D会議室)

講 師:高橋 優介氏(ワークショップデザイン describe with 代表)

内 容:



●ワークショップ「from Me」

(1)ゲームの趣旨

「from Me」は、豊かな暮らしを実現するための行動や周囲へ与える影響を体感するカードゲーム。カードゲームを通じて、様々な行動を通じてより豊かな人生を歩み、※ウェルビーイングを目指す。ゲームを進める過程で、お金や寄付、社会貢献活動がどう回り回って、自分らしさや自分の生き方、さらには、自分の幸せやウェルビーイングに繋がっていくのか、そして、社会課題の解決に向けて、自分はどんなことがしたいのか、また、どんなことができるのかを体感することによって、多種多様な価値観を実感し、お互いのライフスタイルを尊重し合える環境を考えていく。

※ウェルビーイング

ウェルビーイングは健康を表す言葉で、心身の健康だけでなく、満足した生活、幸福な状態、充実した状態など多面的な感情を表す。社会の良好な状態も含め、広い意味での健康を指す。自分の肉体的な健康だけでなく、心の健康も含まれ、生活環境が豊かかどうか、さらには福祉という言葉もウェルビーイングに含まれる。この言葉は、最近出てきた言葉ではなく、1946年に設定された言葉だが、今この言葉が大事であると再度注目されている。

(2)ゲームのルール

・黄緑色のカード:プレーヤーカードでチームが演じる価値観(1枚)

上にアルファベットと価値観、漢字が書かれており、aの家庭、bの安定などと書かれており、アクションカードを実行するときに講師に申告する。

下には大事にしている価値観が書かれており、一番下に具体的なゴール、そのチームがゴールするために必要な条件が書かれている。

wpが10以上と記載があれば、赤いカードを10枚以上集めるなどのゴール条件がある。それぞれのチームで価値観が違っており、家庭を大事にする人、安心して生活を送りたい人、健康的に過ごしたい人、お金が大事な人がいる。現実世界と同じように様々な価値観があり、また、社会課題解決したい人、交流したい人、仕事が趣味の人もあるかもしれないし、日々何か刺激が欲しい人もいるかもしれない。何かを探求したい人、精神的な満足度を高めたい人、自己研鑽という言葉もある。自分を磨くことが大事だと思う人も、これを1つの街みために捉える。

・赤いWPカードは幸せの度合いを示す(3枚)

他の人にあげたり売ったり譲渡できない

- ・100 と書かれたグレーのカードはお金(3 枚)
- ・濃い緑のカードはアクションカード(7 枚)

<ゲームの流れ>

アクションカードには様々な行動や活動が書かれていて、講師の所にアクションカードと必要な場合はお金を持っていくと黄色のリザルトカードが配られる、この結果は価値観などによって変わる。1度使用したアクションカードは2回目以降使用できない。この時に新しいアクションカードが配られる。使用していないお金とアクションカードは他のチームと譲渡や交換が可能。アクションカードを実行して、プレイヤーカードに記された目標のお金や WP カードを集めてゴールを目指していく。

黒いリザルトカードが返って来た場合は、すぐに開けることができなく、ターンが終わり講師の合図によって開くことが出来るお楽しみカード。

全部で 4 ターンあり、1ターンごとに 300 のお金が渡される。

(3)ゲームの様子

今回のチーム編成は2ペア11 チーム。

1ターン目終了時の結果



2ターン目終了時の結果



【中間発表】

テーブルごとにチームの状況を共有したほか、ターンごとにゲーム中に支援した NPO や NGO から、どのように団体活動が良くなったかのレポートの映像が流れた。

3ターン目終了時の結果



参加チームから次のような支援を求める声があがる。

「前回環境が 2 だったものが一気に 6 に上がって、とてもいい社会になったと思うが、経済や社会と比べてみてほしい。まだ環境が少ない、皆さんで環境を良くしていきましょう」



黄色いリザルトカードは、ピンクのハート、青いハート、緑のハートで色が分かれており、ピンクは消費やサービス、青は投資、緑は寄付の結果となる。付箋に何枚あるか書き、各テーブルでの共有を行った。

●ワークショップの振り返りとセミナー

ゴール出来たチームは 7 チーム、出来なかったチームが 4 チーム

<感想の共有や質問等>

【参加者のコメント】

途中で意識が変わっていくのがすごく面白かった。お金を稼いで喜んでいたら WP が溜まっていない。これは大変だとなり、そこから意識を変えたら WP が溜まり、結果的にはお金もそれについてきたというのが面白いという話が出た。

【講師のコメント】

お金ばかりとか、途中でお金いらないとか、お金をあげるとか、世の中でなかなか出会わないような話が出てくる中でも、繋がっているところを感じにくかった方もいれば、逆に感じられた方もいると思うし、前半では感じにくかったけど後半では感じやすかったという方もいると思う。自分たちの行動が、お金も繋がっているし、幸せ度合いも繋がっているというのを実感していただけたかと思う。

【参加者の質問】

高校生以上ぐらいの方がやるのがいいのかという話しをしていて、小さい子もできるような簡単バージョンがあるといい。小学生とかでもできる、もっとシンプルで、カードも少なく、優しいものはないのか。

【講師のコメント】

現状のゲームでも大体中学生以上ぐらいからできると思っていて、中3高1ぐらいからできるかなと思っている。

私は中学生からやったことがある。小学生は漢字が難しく、中学生も例えば、ESG 投資とか遺贈とは何みたいな話になるかもしれない。でも、それを調べる学習にも繋がるので、それはとてもいい機会かなと思っている。なので、一応、目安は高校生以上というところで話をし

ている。それでも、中学校1年生でもできたところもあった。今、英語版と子ども版を開発しようとしている。

子ども版は、今、まず第1段階で、高校生とか中学生がより参加しやすいように、あとわかりやすいように、例えばインスタ等の SNS で投稿するというカードとか、身近な NPO を応援する、例えばフードロスの、何かフードドライブとか、フードロスの活動をするみたいな話とか、自分たちがちょっと引っかけやすいようなカードをあえて入れて、ちょっと身近感じられるものを、ちょうど作っている段階で、東京学芸大付属国際中等教育学校で、今、半年間かけて授業の中で作ってもらっている。できたらまたみんなにも共有したいと思う。いずれは小学生版とかを作れたらいいと思う。身近な寄付ってなんだろうというアクションカードが作れるという話だと思う。

【参加者からの質問】

バロメーターは満点になりましたが、それでも全員がクリアできなかった。そのクリアするためには何が足りなかったと見ていて思いますか。それが知りたいです。

【講師のコメント】

順番もあるかと思う。事務局にはもうアクションカードがなくなっており、例えると 2030 年ぐらいまでにできることを選択肢は皆さんの手元にあって、あとやるかやらないか、どの順番でやるかという状況になっていた。

今回で言うと、ウェルビーイングカードが当たったり外れたりしたが、そのアクションカードは他の人にとっての当たりかもしれない。それが 1 つの考え方、最後の方は、とにかく行動するという流れもあったと思うが、それも全然悪くないと思う。何か行動してみて、自分で感じてみるのも大事、それを求めている人が世の中にいるのかを感じることも大事かと思う。特にゴールした人たちは、余ったカードを求めている人が他にいないかと考える視点が大事。これからの時代はそういう視点を大事にしていくのが 1 つのアイデアになると思う。そこがちょっと足りなかったところ。でも、最後は NPO の活動で、みんな上乘せがあった。そういう積み重ねは引き続き大事だと思う。

●今回のワークショップを通じて伝えたいメッセージ

➤ 個人のお金の使い方やバランスが変化すると、社会全体の変化にもつながる。

寄付の入口としては、収入の 1 パーセントからスタートするのが目安。お金の使い方は「使う」、「貯める」、「譲る」、「増やす」でこれから向き合っていく必要があるのは寄付や投資の「譲る」と「増やす」。

未来に活かす、託す使い方が寄付や投資であり、使う貯めるは「私のこと」、譲る、増やすは「私たちが」という視点が必要だ。

➤ 幸せになるための 4 つの因子とお金の使い方について

- ・やってみよう因子(自己実現と成長)
- ・ありがとう因子(繋がりと感謝)
- ・なんとかなる因子(前向きと楽観)
- ・あなたらしく因子(独立とマイペース)

慶応大学の前野教授によると、お金がいくらあっても一定額を超えると人間の幸福度は変わらないと言っている。その上で、寄付や社会のための投資は、つながりと感謝の関係を生んだり、やりたいことが見つかるという効果がある。NPO を応援して支援し活動の報告をうけているうちに、何か自分が

困った時に助けてくれる NPO があると感じられるようになる。普段から NPO を応援しておけば、何か困ったらそこに相談しようと思える。こういう 4 つの使い方、因子があることを大事にしていきたい。

➤ SDGs

今日のゲームでは経済、社会、環境に関することをまんべんなく伸ばすことができたから、うまく世の中が回った。これで社会課題の解決が促進され、SDGs の達成にもつながっていくということを伝えたい。

NPO や NGO の寄付、企業の投資の活動結果はすぐには出ないことや、すぐに社会課題は解決しないこと、個人の力だけで社会課題を解決するのはかなり難しいこと、1 人 1 人の寄付や投資が増え、それが重なると活動が加速し、大きな力や価値を生み出すということを体験したかと思う。

活動が重なるとみんなにウェルビーイングがもたらされる。これも現実世界とつなげて考えていけたらいい。

➤ 具体的にどんなことができるのか

知る、知らせる、話し合うことができる。

例えば、寄付について話す、NPO のことについて話す、社会課題について話すことだ。今日のように研修会に参加することも大事だと思うし、より良い未来を作る企業に投資することも大事だ。

ESG 投資、社会や環境に対する投資を増やし、社会が変化しやすいように新たなルールを作るような仕組みに投資することも大事だし、NPO、NGO の寄付もどんどん必要だ。

最近、ポイントの寄付もある。例えば T ポイントや楽天ポイントで寄付できたりする。そういうところから始めるのもいいと思う。

0 円でできるアクションもたくさんあった。まずはボランティアに参加すること。ハードルが低い行動なので、ぜひ取り入れてほしい。物品で応援することもいい。例えば、いらない棚を NPO に提供するのでもいい。着られなくなった服を寄付することも活動の一つだ。お宝エイドのような取り組みもある。いろんな活動があるが、小さい活動でも積み重なっていくと、重なり合って大きくなっていく。_

参加者からは、「カードゲームでは自分のことだけの Well-being を考えることでも、それが巡り巡って自分に戻ってくることを知ることが出来た。」「価値観の変化が生まれて経済や社会、環境にどう生きるかが試されている気がした。とても面白かった。」「寄付が社会を変え、自分の意識も変わりワクワクする世の中になったらいいなと思いました。_」「やはり地道な活動が大事だな、リターンには時間がかかるのだなと改めて感じました。お互いに思っている、感じている事を伝え合うことを続けていきたいです。」などの感想が寄せられました。